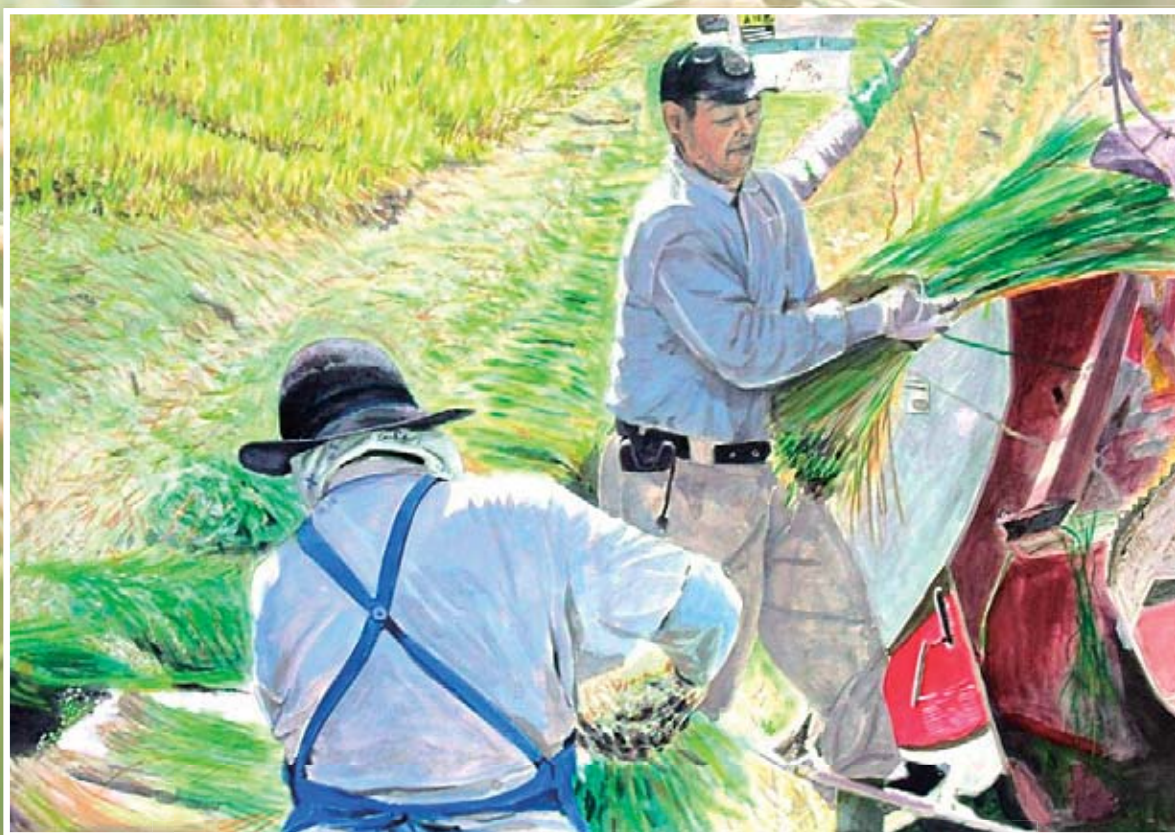


第35回



ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



農林水産大臣賞 図画3部 「恵みの稲」
山形市立第九中学校3年 西田 知世さん



平成23年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

第35回 「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○文部科学大臣賞

(作文 2 部) 瀬川 隼矢 庄内町立余目第四小学校 6年

○農林水産大臣賞

(作文 3 部) 石森 泉 鶴岡市立鶴岡第四中学校 3年

(図画 3 部) 西田 知世 山形市立第九中学校 3年

○学校奨励賞

庄内町立余目第四小学校
鶴岡市立鶴岡第四中学校
山形市立第九中学校

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞	寺崎 亜寿美	大石田町立大石田小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	佐藤 流偉	鶴岡市立朝日小学校	1年
優 秀 賞	後藤 美空	米沢市立愛宕小学校	1年
	菅原 菜央	鶴岡市立朝陽第二小学校	1年
	鈴木 駿佑	大石田町立大石田小学校	2年
	會田 空翔	山形市立出羽小学校	3年
	鈴木 花凜	米沢市立南部小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	工藤 暢晃	庄内町立余目第一小学校	4年
山形県農協中央会会長賞	菅原彩花里	鶴岡市立朝日小学校	6年
優 秀 賞	伊藤南奈美	鶴岡市立朝日小学校	4年
	長沼龍之介	高島町立糠野目小学校	4年
	斉藤 健	真室川町立平枝小学校	5年
	齋藤 元希	大石田町立大石田小学校	6年
	小林 一樹	寒河江市立幸生小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	小野 茜	朝日町立朝日中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	菅井 滯	朝日町立朝日中学校	3年
優 秀 賞	井上 玲	米沢市立第三中学校	1年
	大橋 鉄郎	米沢市立第四中学校	1年
	坂野 涼子	米沢市立第一中学校	2年
	江部ひふみ	米沢市立第四中学校	2年
	杏澤 佑樹	山形市立第三中学校	3年

●学校奨励賞

大石田町立大石田小学校
朝日町立朝日中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	柴崎 真人	最上町立富沢小学校	3年
山形県農協中央会会長賞	加賀 悠大	鶴岡市立朝陽第二小学校	1年
優 秀 賞	高橋 龍馬	大石田町立田沢小学校	1年
	鈴木 来春	尾花沢市立尾花沢小学校	2年
	笹原 実莉	尾花沢市立福原中部小学校	2年
	五十嵐一樹	尾花沢市立常磐小学校	3年
	西塚 優太	尾花沢市立玉野小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	森谷 康平	山形市立出羽小学校	6年
山形県農協中央会会長賞	小幡 圭佑	尾花沢市立福原中部小学校	5年
優 秀 賞	星 竜成	米沢市立西部小学校	4年
	佐藤 一貴	天童市立成生小学校	4年
	五十嵐友寿	鶴岡市立櫛引南小学校	5年
	佐藤 俊貴	鶴岡市立西郷小学校	5年
	押野 尚道	鶴岡市立朝陽第二小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	原田 拓夢	山形市立第九中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	荒井瑳絵子	山形市立金井中学校	2年
優 秀 賞	大滝 日菜	山形市立金井中学校	1年
	高橋 里沙	山形市立金井中学校	2年
	吉田 心	山形市立金井中学校	2年
	遠藤 千央	山形市立第九中学校	3年
	鈴木 里奈	山形市立第九中学校	3年

●学校奨励賞

鶴岡市立朝陽第二小学校
山形市立金井中学校



ごあいさつ

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

三十五回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文点四一五点、図画九〇六点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。全国コンクールでは、作文部門で文部科学大臣賞と農林水産大臣賞、図画部門で農林水産大臣賞を受賞するという素晴らしい成績を収めました。これもご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきとを見直してもらい、人々とのコミュニケーションをはかっていたために実施しております。特に今年度は、本格デビューした「つや姫」の話題もあり、おいしいごはん・お米に、より注目していただけだと思えます。

皆さんの作品は、米作りのお手伝いを通じて感じた家族への感謝の気持ちを表現したものや、田んぼの生き物や稲をよく観察して思いをふくらませたもの、さらには、収穫そして食べる喜びを思い切り表現したものなど、個性豊かですばらしいものばかりでした。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦勞や努力

山形県農業協同組合中央会

会長 今田正夫

を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。そして、家族を大切にしている心、自然を大切にしている心、生き物すべての命を大切にしている心を育み、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本は、世界中の国々と貿易をおこない、多くの食べ物を輸入しております。食料自給率は四〇%と、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなるのが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことで考えています。

今、太平洋を囲む地域の国々が、関税をなくし自由な貿易をすることなどについて話し合いをしており、日本の農業はたいへん厳しい状況にあります。もし、日本が貿易自由化に参加すれば、広大な農地をもつ国々の輸入農産物により、日本農業は大きな打撃を受け、さらに、田畑の荒廃や今以上に食料自給率が低下することになります。JAグループは、日本の食料・農業・農村を守るための運動に、漁業団体や消費者団体、地方自治体と一緒に取り組んでいます。

また、私たちJAグループは、消費者のみなさんと一緒になつて、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを考え行動する「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでいます。日本人の主食である米をはじめとした日本型食生活の推進、地場産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大、安全・安心な農畜産物の提供に向けた取り組みに、今後一層努力をまいります。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

農林水産大臣賞



「恵みの稲」

山形市立第九中学校3年

西田知世

■山形県知事賞■

「楽しい いねかり」

最上町立富沢小学校三年

柴崎 真人

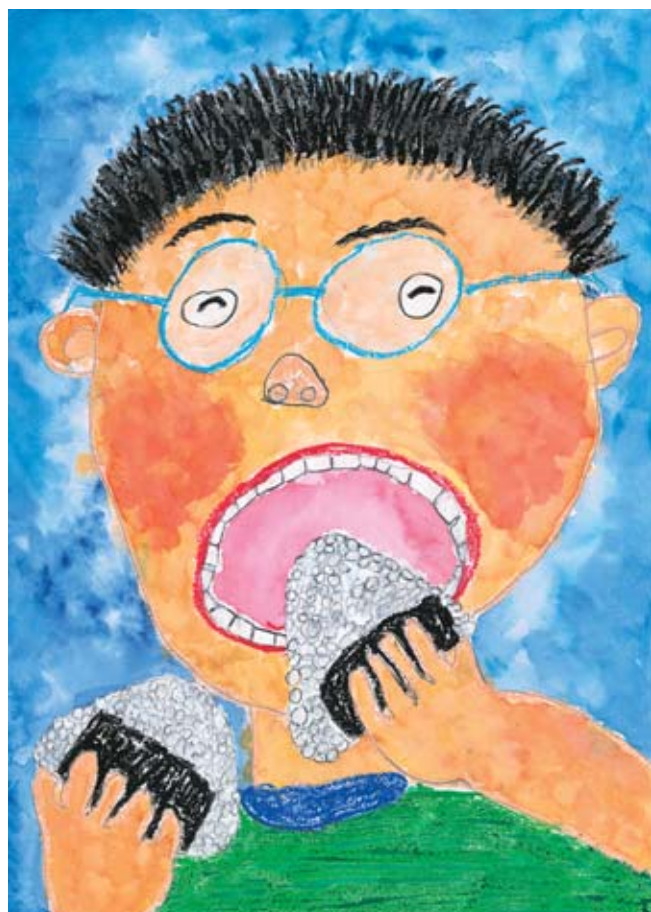


■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「ごはんおこめとわたしと」

鶴岡市立朝陽第二小学校一年

加賀 悠大



■山形県知事賞■

「みんなでやるぞー！さあ、田植え」

山形市立出羽小学校六年

森 谷 康 平



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「挑戦バケツ稲のしゅうかくへん」

尾花沢市立福原中部小学校五年

小 幡 圭 佑



■山形県知事賞■

「収穫の喜び」

山形市立第九中学校三年

原田 拓夢



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「青空の下で」

山形市立金井中学校二年

荒井 瑳絵子



文部
作2

文部科学大臣賞

生きた化石からのおくり物

庄内町立余目第四小学校六年

瀬川 隼矢



「二年前に飼育セットを買ったけど、育てられなかったな。」
「生きた化石と言われているらしいけど、こんな所で見ることができるとか。」
「ほんとに見ることができるとか。」
「ほんとに見ることができるとか。」

母とこんな会話をしながら、ぼくは六月、庄内町で行われた「カプトエビから見る農地の生物の多様性」という観察会に参加しました。

まず、二億三千万年前の地層から化石が見つかったと言われるカプトエビについて説明を受け、いよいよ田んぼでの観察。田植えから一カ月ちよつとの田んぼには、堂々と成長した稲の苗がしっかりと根をはっていました。

「そこだけちがうんで。」

という声。そう、他の田んぼの水はすんでいるのに、そこだけ土色にしっかりとこつているのが目に飛びこんできました。ぼくは、はやく見たくて田んぼの方へ走っていききました。

アメンボやカエルが泳いでいるのが見えました。もつとよく見ると、下の方から土をけちらすように、ひよこひよこ動いている物が見え、思わず手を伸ばしていました。それが初

めて見るカプトエビでした。甲らの下で数十本の足をシャカシャカ動かしながら土の上をはい回るように泳ぐ姿に、ぼくは、すっかり夢中になってしまいました。

カプトエビが日本では、田んぼでしか見つかっていないこと、古代からほぼ同じ形で生き続けているのに、環境にはものすごく敏感なこと、でも「田の草取り虫」として稲作の手伝いをしてくれるのだということを知りました。説明を聞いてぼくは、このちいさな生き物が豊かな田んぼを示す指標として、庄内町一円に広がり、安心・安全な米づくりのシンボルになったらどんなにステキかと思いました。今のお米のルーツと言われる「亀の尾」をカプトエビ農法で育て、「古代からの恵みカプトエビ米」なんて売り出すのもおもしろいとどんどん夢が広がりました。

観察会の後、カプトエビを分けてもらい家で飼ってみました。水道の水では生きられないとか、水温が高すぎるとダメとかちよつと大変でしたが、卵を生む様子や脱皮を観察することができました。それに土や水を何より大事にする米作り農家の方の苦労をちよつぱり体験することができたような気がしました。

とうとうふ化するまではいけずにすべてのカプトエビの寿命が尽きてしまいました。田んぼの生き物とぼく達の生活が共に豊かになるようカプトエビが注目されていること、それに出会えたということは、ぼくにとって、かけがえのない体験でした。

ぼくはこの夏、自然と共存する豊かな米作りへ、夢と研究と苦労がたくさん積み重ねられているのを知りました。来年こそぼくも卵をかえし田んぼにはなしてみたいと思います。

文部
作3

農林水産大臣賞

祖父の田圃から見つけた私の夢

鶴岡市立鶴岡第四中学校三年

石森 泉



「泉、今度の土曜、少連寺じつちゃん家さ田圃の手伝い行ぐぞ。」夕食後、電話を受けた父が言った。それを聞いて家族全員の顔が引き締まった。今年も我が家の田圃のシーズンが到来したのだ。今年の田植えは天候に恵まれ、春の陽を受け、水を張った田圃には金峰山がその姿を堂々と横たえている。静かだった田圃に、祖父の運転するトラクターのエンジン音が力強く鳴り響いた。今年も始まった。

作業は家族全員で分担して行われる。私と弟は苗をケースから外したり、そのケースを洗う仕事。これは見た目よりも重労働で、三十分もすると腰が痛くなってくる。案の定弟が弱音を吐いた。「お姉ちゃん疲れた。」

「みんなが頑張っているんだから、ゆっくりでいいから頑張れ。うめぐなれ、うめぐなれと言いながらやれば疲れ忘れっがら。」この「うめぐなれ」は祖父の口癖だ。田圃の仕事をする時は呪文のように唱えながら祖父は仕事をするのだ。その話を弟にしてやると、弟も「うめぐなれ」の呪文を唱えながら作業に戻っていった。午前中の作業が一段落して家族全員での昼食。汗を流した後で食べるおにぎりの味は格別だった。家族の誰もが笑顔だった。その後も田植えは順調に進み、夕方にはすべてが終了した。体の芯まで達する疲れ、それでいて、気分は爽快だった。田植えが終わった田圃は緑の絨毯のようになり、そこに春風が渡っていった。さつき植えたばかりの苗が揺れていた。それを見た瞬間、やった

という充実感で胸がいっぱいになった。

帰り際、私に、突然祖父が尋ねた。

「泉、田圃の仕事好きだが。家にはじつちゃんの後継いで田圃やる人間はいね。泉にじつちゃんの田圃やるから、泉が田圃やってくれ。」

そう言った祖父は寂しそうな目をしていた。

今日本の農業従事者は減少の一途をたどっている。農業従事者の高齢化も進み、後継者不足が大きな問題となっている。祖父の家の抱える問題は、日本社会全体の課題となっている。祖父のような六十五歳以上の就農者数の割合も非常に高く、このまま進むと日本で農業をする人がいなくなってしまうのではないかと心配になる。日本の主食である米を、日本で作る人がいなくなってしまうのだ。それも、そう遠くない未来に。

私はこの五月に実施された職場体験で、農業を選択した。百五十人いる生徒の中で農業を選択した人はたった二人。この現実日本の農業の現実なんだと改めて思い知らされた。体験先での仕事はメロンの草取りで、三日間明け暮れた。

「こんな仕事しなくて申し訳ねえの。でも、農業やるからにはこの草むしりだけは欠かせねえの。しっかりとやっど、うめメロンさなっから。」

体験先の方がおっしゃったこの言葉に私ははっとさせられた。農業は収穫時が最高の喜びとなるが、それまでには根気のいる仕事が続々と続く。祖父は一人でその根気のいる仕事をこなしている。私は米を作っていると友人に自慢していたが、田植えと稲刈りといった米作りの一番おいしいところだけの手伝いだったのだ。中三の私は進路を考える時期になっている。米作り農家になるという漠然とした夢が少しずつはつきりとした目標になりつつある。私は将来米作り農家をしてみたい。そして、日本一おいしい米を作ってみよう。

今、祖父の田圃ではぎっしり詰まった稲が黄金色に輝き、頭を垂れてきている。もうすぐ稲刈り。今年もおいしいお米が育っていますように。

■山形県知事賞■

がんばったなえばじい

大石田町立大石田小学校二年 寺寄亜寿美

わたしは、ながとろのばあちゃんのうちに田うえの手つだいをしにいきました。でも、きかいで田うえをしていたので、しごとがありませんでした。いとこのおかあさんに、何をするといいかきいたら、なえばこをあらうしごとを教えてくださいました。

ここには、なえのねっこがへばりついていたので、なえのねっこって、こんなにいっぱいあってすごいなあと思いました。このはこに入っていたなえは、元気がよく、はっぱがやわらかくて、きもちがよかったです。こんなに元気がいいのは、ねっこがいっぱいあるからなんだと思います。なえが田んぼにうえられて、もっと大きくなつて、いっぱいおこめがなるといいなと思いました。わたしは、田んぼのわきのそっこうにいて、はこにへばりついていたねっこをとって、ブラシであらいまし

た。田んぼには入っていないけど、田んぼの中には、アメンボやカエルがいっぱいいました。ヒルもいて少し気もちわるかったです。はこは、いっぱいあるので、休み休みやって、いっぱいあらいました。手がいたくなってきたけどつづけてやったらまめみたいなものができていました。

ようやくおわったら、ちがうたんぼにいつてまた、しごとをしました。はこをちゃんとあらって来年つかうのだそうです。田んぼのしごとは、いっぱいあるんだなと思いました。

「よく、がんばったね。」

とばあちゃんがいつてくれたので、うれしかったです。大へんなしごとでした。

ばあちゃんのうちで、ごはんを食べました。ばあちゃんたちが一生けんめいつくつてくれたおこめをのこしてはいけないと思いました。おこめは、カレーにもやき肉にもどんぶりにもぴったりなので、すごい食べものです。心をこめてつくっているから、おこめはおいしくなるんだなと思いました。

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

ぼくはじゅぎョマン

鶴岡市立朝日小学校一年 佐藤 流偉

シャカシャカシャカ、ギョツギョツギョツ、ジャーツ。だいどころからおもしろそうなおとがしてきました。みにいったら、おかあさんがこめときをしていました。じつとみていたらかんたんそうだったので、ぼくもちょうせんすることになりました。

おかあさんにおしえてもらいながら、シャカシャカ、ギョツギョツ、クルツ。もういちどギョツギョツ、ジャーといきおいよくみずをながしたら、バラバラバラとこめつぶがながれてしまいました。するとおかあさんが、「一ねんかけて、おじいちゃんとおとうさんががんばってつくっているおこめをむだにしちゃだめでしょ。」といいました。ぼくはいそいでこめつぶをひろいました。そして、

「あしたは、ちゃんとうまくやるから、またやらせて。」

とおねがいました。

つぎのひのよる、もういちどこめときにちょうせんしました。こんどはこめつぶがながれないように、シャカシャカ、ギョツギョツ、ジャーツと少しずつかみずをながしました。おかあさんが、

「きのうより、うまくできたね。るいはうちのこめときマンだね。」

とほめてくれました。ぼくはちよつとうれしくなりました。

あさ、みんなに、

「きょうのごはんはぼくがといだこめだよ。」

といったら、おおきなおじいちゃんが、

「おお、んだがあ、いつもよりおいしいよ。」

といつてくれました。とてもうれしかったです。ぼくはいつもよりもごはんをたべました。

またこめときマンにへんしんして、みんなにおいしいごはんをたべてもらおうぞ！

■山形県知事賞■

お米の大切さ

庄内町立余目第一小学校四年 工藤 暢晃

「見回り、行てくつが。」

けいじじちゃんは、雨の日も風の強い日もお酒によつた日もわすれずに田んぼを見回る。水を調整したり、いねが病気になるっていいないか、毎日注意して見ている。それに、新聞やテレビをよく見て、天気や気温、日の出、日の入りの時こくを調べて、毎日、日記に書いている。もとたてのけいじじちゃんは、はえぬき、ひとめぼれの米づくりの名人である。ぼくの家でも、けいじじちゃんのお米を食べている。

けいじじちゃんの家に遊びに行つた時、ぼくがパンを食べていたら、

「パンかねで、米け。」

と言つた。ぼくが

「どうして。」

とたずねると、

「米、余て困る。せつかく、いっしょうけんめい農家の

人がつぐつたなさ。日本人は米くわねば、だめだ。」

と言つた。お米を作るのに、農家の人たちは八八回も草をとつたり消毒したり、こやしをやつたり土をたがやしつたりして世話をする。だから「米」というそうだ。

ぼくが、三月にけいじじちゃんの家に行つた時、さむいくらの中でたねまきをする土作りをしていた。四月には、親せきじゅうが集まつたたねまきをした。ぼくも、そね運びを手伝つた。けいじじちゃんは、ハウスのなえがつかないように毎日毎日注意して見た。五月は、気温のひくい日が続いて、とても心配したそうだ。米づくりを始めていらい、初めてハウスでストーブをたいたそうだ。大事に大事にそだてたなえが田んぼに植えられた時、けいじじちゃんの心の中もほつとしたことだろう。一面が緑のジュータンのようになえが風になびくまで、けいじじちゃんの世話は続いた。

ぼくのお母さんは、一面緑の田んぼと黄金になみうつ田んぼの風景が好きだそうだ。今年は特に暑い日が続いている。黄金の田んぼになるまで、けいじじちゃんの戦いは続いている。

「日でりが続くと、庄内平野は冷害の時より米のしつが落ちんなやの。」

けいじじちゃんは今年の米の出きばえを心配している。

いい米ができるように、暑い日も重い農薬を背おって病気になるないように消毒したり草とりをしたりしてがんばっている。

夏休み、けいじちゃんのお田んぼのいねもほが出て、たれてきていた。おいしい米ができるように、ぼくもお田んぼに向かって手を合わせた。

ぼくはごはんを食べるときよく

「米どご、そまつすつど、目見えねくなる。」と言われる。それは、けいじちゃんや農家の人の世話をそまつにはいけないという意味だ。一粒一粒かみしめて食べたいと思った。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

おじいちゃん、また作るからね

鶴岡市立朝日小学校六年 菅原彩花里

グオーン、グオーン、グオーン……。ゆっくりだった機械の音が、出来上がるにつれて、速くなる。台所は、ほのかに甘い餅米の香りでいっぱいだ。いつものように、おばあちゃんが餅つき機をのぞきながら、つき上がりを見定めている。

「できだぞお。」

おばあちゃんの声で、家族みんながテーブルに集まる。お父さんにお母さん、私と妹のゆうあだ。おばあちゃんがちぎったあつあつの餅をみんなで丸め始めた。何個か作って並べていると、

「彩花里、うまくなつたのう。」

と、おばあちゃんがほめてくれた。

「うん、おじいちゃんから教えてもらったから……。」

おじいちゃんは、わたしが四年生の時の二月に病気で亡くなってしまった。わたしは、おじいちゃんが大好きだった。役場など、ふだんは行けない所に連れて行って

くれたり、一緒に山に行つて山菜やカタクリの花を採つてくれたりもした。おじいちゃんは、我が家の米作りを、一手に引き受けていた。毎日、朝早く起きては、田の水を見に行き、わたしが起きるころにはもう帰つて来ていた。おじいちゃんが育てたあきたこまちは、白くてつやつやしていて、食べるのもちもちで、とてもおいしかった。おじいちゃんは、餅米作りも上手で、おじいちゃんの餅米で作る年三回の餅つきは、わたしの楽しみの一つだった。

わたしに餅の丸め方を教えてくれたのは、おじいちゃんだった。低学年のころ、わたしが丸めると、よく変な形になってしまった。そんな時、いつもおじいちゃんが、やさしく教えてくれた。

「こうやってやっど、うまいぐ丸くなつぞ。」と、手のひらで、くるくる回して丸くした。おじいちゃんの大きな手の中で、ふにゃふにゃの餅が、白い真じゅになった。

おじいちゃんをついた餅は、冬にストーブで焼いて食べてもおいしかった。まきストーブで焼くと、ゆっくり焼き上がるので、妹と、

「もち、まだあ？」

と聞きながら、何回もひっくり返した。だんだんふわつ

とふくらんできて、しょう油をつけて、のりではさんで食べると、とってもおいしかった。おじいちゃんは、砂とうじょう油をつけて食べていた。わたしと妹が、

「餅、うめえ。」

と言うと、おじいちゃんが、

「んだろう。自分でついた餅はうめんだや。」

と教えてくれた。

今年、わたしが丸めた餅は、お父さんに負けないぐらいの出来映えだ。(おじいちゃんのおかげで、こんなにうまくなれたよ。うめはげ食つての。この次は、もっとうまくなるから。)と、わたしは静かに仏だんの前で両手を合わせた。



■山形県知事賞■

愛情を持つて

朝日町立朝日中学校三年 小野 茜

私が朝起きて最初に口にする物は、ほかほかに炊けたご飯だ。ご飯を食べると、自然に体いつぱいの元気が出てくる気がする。

その活動力の源を作ってくれているのは、私の祖父母だ。祖父母は毎年、大きな二つの田んぼでたったの二人で作業してお米を作っている。稲が大きく育つ夏の間は、家の横にある畑でナスやトマトなどの野菜を作り、さらにさくらんぼ、いちご、りんごなどの季節の果物を作る。こんなにとくさんの種類の食べ物を作るなんて、まさに「なんでも屋」のような存在だ。私は母がスーパーでお米を買っている所を見たことがない。なぜなら、祖父母が毎年お米を作ってくれているからだ。

小学校四年生の時、私は初めて米作りがいかに重労働かを知った。秋の休日のある日、

「茜、稲刈りの手伝いすねが。」
と父が誘った。退屈していた私は、すぐに父の誘いについて、長靴を履き軍手をはめて家を出た。よく晴れた空には、赤トンボがたくさん飛び交っていた。着いた時には

すでに稲を刈る作業は終わっていて、田んぼ一面に刈られた稲が向きをそろえて並んでいた。

「茜、稲干すの手伝ってける。」

と祖母に言われ、一緒に稲をまとめて田んぼに刺してある棒に積み上げていく作業をした。稲を束ねる作業はとても難しかった。稲をまとめて束を作り、稲数本をひもの代わりにして結ぶ。私は、結ぶ時稲をあらゆる方向にねじったりするのが難しく苦戦した。

「ばあちゃん、これどうすんの。」

と何度も聞いて教えてもらった。教えてもらった時の祖母の手の動きはとても素早く、まさに早技だった。私は見よう見まねでなんとか稲を束ねて積み重ねていった。一時間ほどで作業は終わり、私は田んぼの半分くらいしか手伝っていないのに足が疲れ、へとへとになってしまった。でも、

「おお茜、手伝い来てくれたのがあ。」

と祖父が笑って喜んでくれたのが嬉しかった。私はたったの一時間で疲れてしまったのに、祖父母はこの作業を一日中しているのだということを見ると、本当に頭が下がる思いがした。家でおいしく食べているお米や果物は、二人の努力の下にあるものだと思った。

私の家には、よく親戚が泊まりに来る。その時は、必ずご飯と祖父母が育てた野菜を使った手伝りのおかずを、ごちそうする。すると、泊まりに来た方は必ず、

「本当にうまいなあ。」

と言ってくれるので、とても嬉しい気持ちになる。もし私が、自分一人で一から米を作っていたとしたら、おいしいと言われれば（頑張って作って良かった。）と心から思うだろう。祖父母は、食べてくれる人に「おいしい。」と言ってもらうために一生懸命米作りをしているのだと思う。祖父母が作るお米は、おかずがなくても食べられるくらい味に甘みがあっておいしいし、時間がたってしまっても柔らかい。毎日昼食に持つていくご飯は、冷たくても味は炊きたてと変わらない。そんなお米が、私の家の一番の自慢だ。

小学校五年生の時、バケツに苗を一株だけ植えて育てる「バケツ稲」をした事があった。自分で苗を植えたり、水をかけてあげたりすると、自然と自分の稲に愛着がわいて、丈夫に育ってほしいと心から思った。祖父母も、毎年毎年自分たちの田んぼの稲に愛情をもって育てているのだらうと思った。

近頃、祖母は

「腰痛い。」

と辛そうな顔をしながらつぶやくようになった。きっと毎年の農作業で疲れているのだろう。今年ももうすぐ稲刈りの季節が来る。今年は久しぶりに稲刈りの手伝いをし、祖父母の手助けをしようと思っている。「いつもおいしいお米や果物を食べさせてもらってありがとう。」と恩返しをするためにも。

■山形県農業協同組合中央会会長賞■

自然の中で生きる

朝日町立朝日中学校三年 菅井 滯

私の家は農家です。主にお米とりんごを作っています。小さい頃から田や畑での手伝いが好きでした。自分のためになるといわれ楽しくやっています。好奇心もあつて畑で手伝いをしながら、葉っぱでよく遊んだことを覚えていきます。

でも、今はその好奇心も薄れ、親が助かるということだけで手伝いをしています。

「滯、ちよつと来て手伝って。」

と額に汗をにじませ懸命に仕事をしている母が外から呼びかけても、

「えっ、今無理。」

と素直に動けなくなった自分の姿に気づきます。しかし、土・日曜日だけはりんごの葉摘みや玉返しなどの手伝いを、半分面倒臭いと思いつながら続けています。小学生の頃は手の届かなかつた枝にも手が届くようになって、父母達の大きな助けになつていようなのです。

そんな私が今年初めて田植えに挑戦しました。父や母の作業する様子を見ていて、

「なんだ簡単だ。」

と思ったのですが、田の中に入ってみると全く動けず、「歩かないと、どんどん沈んでくぞ。」

と言われ、沈んではならないと足を前に出しました。けれど足が沈んでとれなくなってしまう、手をついてとろうとしました。しかし、そこは田の上。手までズボズボと入って感じたことのない感触を体験しました。田からあがり、上から田を見ていました。さつき田に入った手から温かい土の香りがして、なつかしい気持ちになりました。

田植えができて、うれしかった春。しかしその後、田の様子も見ず、稲の成長具合の話にもほとんど加わりませんでした。あんなに小さくて細い苗からどのくらい成長したのか……。学校に行く途中で他の家の田を見ますが、何も考えず通り過ぎる毎日でした。自分の家の田は、近くにあるけれど通学路ではないので通ることもありません。その田の近くにりんご畑があり、時々手伝いに行きますが、田まで行くことはありませんでした。その日の手伝いが終わって家に着くと、父が、

「あつ、水見てくるの忘つた。」

と言い、田の水を見に行きました。時々田に水をやりに行っているのは知っていました。夜や早朝、水をやりたり、止めたり、しっかり調整しているのです。

九月の休みの日、久しぶりに田を見に行きました。す

ると、とてもなつかしい稲のいい香りがしました。稲は、いつのまにか膝ぐらいの高さになっていました。青々とした葉先がかすかな風でサワサワと揺れ、きれいな音を出していました。今年も台風があつたのに、稲は一本も斜めになっておらず、たくましく育っていたのです。こんなにも稲が丈夫にきれいに育っているのも、いつも水をやってくれている父や祖父のおかげだと思いました。今年はとくに暑い日が続いて、水の管理や調整が大変だったと思います。いつもしっかり水をやってくれている、父や祖父のことを考えながら食べるご飯は格別でした。

私は今、おいしい米を作ることができるようになりましたと思つています。いろいろと自分の進路を考えるうちに、自然という大きなものがないと思うようになりました。小さい頃から住んでいる自然の中で暮らすことが、幸せだと思うようになりました。前は田舎はいやだと思つていました。都会の方が便利で楽だからです。でも都会で食べられないものが田舎にはあります。都会の会社で働くのは格好良さがあるけれど、私は自然の中で暮らす農家になりたいと思つています。おいしい米をたくさん作って、自然の中で学ぶことや広い空の下で感じたことを、たくさんの人々に教えていきたいと思つています。

作文部門審査講評

山形市立西小学校校長 柿崎 憲一

第三十五回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの作文部門には、県内七十八校から四一五点の作品応募がありました。

全国コンクールでは、庄内町立余目第四小学校六年瀬川隼矢さんの「生きた化石からのおくり物」が文部科学大臣賞を受賞し、鶴岡市立鶴岡第四中学校三年石森泉さんの「祖父の田圃から見つけた私の夢」が農林水産大臣賞を受賞しました。おめでとうございます。

それでは、県審査を行い、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会長賞を受賞された作品を紹介いたします。

一部（小学校一年生から三年生まで）

○「がんばったなえばこあらい」（大石田町立大石田小学校二年・寺寄亜寿美・山形県知事賞）では、ばあちゃんの家で苗箱洗いのお手伝いを力いっぱいしたり、田んぼの生き物とふれ合ったりした楽しさと満足感が伝わってきます。苗の根つこの多さや箱にへばりついている様子をしっかりと見て書いているので、根つこの強さに苦しみながら仕事をがんばった様子が目にありと浮かんできます。

○「ぼくはこめとぎマン」（鶴岡市立朝日小学校一年・佐藤流偉・山形県農業協同組合中央会長賞）では、普段の家庭生活の一場面から、米とぎのお手伝いを通して家族の温かい結びつきを感じます。米をとぐ音が実に効果的で、手さばきが目の前で見えるようです。お母さんとおじいちゃんの筆者にやさしく語りかける会話文も、実際の場面を想像させて作品を生き生きとさせています。

二部（小学校四年生から六年生まで）

○「お米の大切さ」（庄内町立余目第一小学校四年・工藤暢晃・山形県知事賞）での祖父は、雨の日も風の日も、お酒を飲んだ日も常に稲の育ちを気にかけて、米作りに強い思いをもっています。そんな祖父の働きぶりを筆者はよく見つめ、強い意気込みをひしひしと感じている思いが伝わってきます。「けいじいちゃん」が仕事をする様子を細かく書き表した文章から、がんばっている祖父に感動し、誇りに思う気持ちが強く伝わってきました。

○「おじいちゃん、また作るからね」（鶴岡市立朝日小学校六年・菅原彩花里・山形県農業協同組合中央会長賞）は、亡くなった祖父

との思い出をよく回想して表現しています。餅を丸める時に、やさしく教えてくれた祖父の様子や、一言一言の言葉を今も心の中にとどめ、大切に思っている筆者の気持ちがよく文章として表現されています。筆者は、祖父から温かい愛情をいっぱい注いでもらったことを強く感じているのでしょう。読んだ人の心に残る作品です。

三部（中学校一年生から三年生まで）

○「愛情を持って」（朝日町立朝日中学校三年・小野茜・山形県知事賞）では、軽い気持ちで稲刈りを手伝った時のことがすぐれた表現力でえがかれており、情景が目には浮かんできます。手伝ってみると意外に重労働であることに気づき、祖父母への感謝の思いを新たにします。祖父母が愛情をもって育てた米や野菜が食べられることに誇りをもち、自分も手助けしたいという前向きな気持ちが素直に表れています。明るく、温かさの感じられる作品です。

○「自然の中で生きる」（朝日町立朝日中学校三年・菅井滯・山形県農業協同組合中央会長賞）での筆者は、幼い頃から農作業をする家族の姿を見て育ったのでしよう。自然と共に生きることの素晴らしさも大変さも知っているからこそ、中学生の今、心の中に色々な迷いがあることを素直に表現しています。将来は、広い豊かな自然の中でおいしい米作りをしたいという思いがふくらみつつある様子に、自分の生き方を決めようとする清々しい決意が感じられます。

○文部科学大臣賞を受賞した瀬川隼矢さんの作品は、カブトエビの観察を通して、カブトエビが田んぼに生息することが米作りによい影響を与えることを知り、米作りへの夢が広がる気持ちがかかれてきます。カブトエビという視点から、筆者が米作りの大切さをより強く感じるようになったことが伝わってきました。

○農林水産大臣賞を受賞した石森泉さんの作品は、祖父が語る言葉から、農業従事者の減少や高齢化の問題に気づき、さらに職場体験を通してその現実にも気づいていくという構成に優れています。祖父の意思を継いで、米作り農家になりたいという筆者の夢を応援し、したくなる作品です。

評 講 査 審 部 門 画 図

明 吉 田 校長 山形市立第十中学校

第三十五回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門には、県内一八校から九〇六点の作品が寄せられました。その中から優れた作品を選ぶ県審査を行いました。その結果の中から、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会長賞を受賞された皆さんの作品をご紹介します。

第一部（小学校一年生から三年生）

○「楽しいいねかり」

（最上町立富沢小学校三年・柴崎真人・山形県知事賞）

黄金色に実る田んぼの中で、一株一株稲を刈る収穫の喜びが、明るい表情、先端まで丁寧を描かれた鎌、そしてたわわに実った稲の一本一本によく表現されています。実りの秋の喜びが、明るい色使い、丁寧な筆使いで表されていて、見る人に強く伝わってくる作品に仕上がっています。

○「ごはん・おこめとわたし」

（鶴岡市立朝陽第二小学校一年・加賀悠大・山形県農業協同組合中央会長賞）

おいしそうなおにぎりを両手に持って、大きな口でうれしそうに頑張る表情に、見る人が思わず「おいしそう」と口にしてしまいそうな作品です。おいしい表情いっぱい顔、米粒一粒一粒が丁寧に描かれたおにぎり、それらが「おいしい」を一層引き立てています。

第二部（小学校四年生から六年生）

○「みんなやるぞー！さあ、田植え」

（山形市立出羽小学校六年・森谷康平・山形県知事賞）

田植えの様子を一人一人の動きを細かく捉えて描き表しています。体についた田んぼの土が作業中の動きを想像させます。色彩が豊かで、水をはった田んぼに映る姿を描くなど表現力も高いです。遠くの山の色、初夏の葉の色、水の色に季節を感じます。

○「挑戦 バケツ稲しゅうかくへん」

（尾花沢市立福原中部小学校五年・小幡圭佑・山形県農業協同組合中央会長賞）

バケツ稲を手前に大きく描き、稲の存在感を強調しています。また、その稲を今まさに刈ろうとする人物の真剣な表情も気持ちを感じられます。そして、絵の具の塗り方にも工夫が見られ、筆の跡を残しながら変化のある色合を作り出しています。

第三部（中学校一年生から三年生）

○「収穫の喜び」

（山形市立第九中学校三年・原田拓夢・山形県知事賞）

収穫された稲束を二人で抱え、一年の苦労が報われたようなほのぼのとした喜びの表情をみせている老夫婦を温かく描き切っています。稲の一粒一粒、おばあさんのブラウスやエプロンまで丁寧に描かれていて、実在感を感じさせています。遠くの山並みとまだ刈られていない広い田んぼの背景も、収穫の喜びを際立たせる効果を出しています。

○「青空の下で」

（山形市立金井中学校二年・荒井瑛絵子・山形県農業協同組合中央会長賞）

晴天の下、収穫の風景を色彩豊かに、明るい雰囲気でも表現されています。おにぎりを頬張る女の子の表情がとても生きています。黄金色に輝く稲穂の色の表情がとても美しく表現されています。技術的にも、陰影をしっかりと捉え、重色で微妙な色の変化をよく表現されています。

○県学校奨励賞は、鶴岡市立朝陽第二小学校と山形市立金井中学校が受賞しました。おめでとうございます。

また、全国審査会では山形市立第九中学校三年の西田知世さんの作品「恵みの稲」が農林水産大臣賞を、併せて山形市立第九中学校が学校奨励賞を受賞するという素晴らしい成果を収めました。

西田さんの作品は、夫婦が晴天の下、収穫作業に勤しんでいる光景を描いた作品です。水彩絵の具の特性を活かし透明感のある明るい色調で構成されており、特に、逆光の光をよく観察し、効果的に表現された見事な作品です。

今年度は、作文部門と合わせて大臣賞三名、学校奨励賞三校受賞という山形県の頑張りが見事な年になりました。県が知事さんに先頭に県民一丸となって推進している「つや姫」の本格デビューに呼応するかなのような成果を得られたことは実に嬉しいかぎりです。

お米は、山形県を象徴する産物にとどまらず、日本の伝統文化、日本人の心の源でもあると思います。

これからの時代を担う皆さんが、今後も益々山形の文化・日本の文化の象徴を大切にすることを続け、文化活動に活かしてくれることを期待したいと思います。

作文部門

図画部門

第29回	第28回	第27回	第26回	第25回	第24回
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 酒井 惇(天童市) 齋藤 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 伊藤 浩司(朝日村) 石山 芽生(最上町) 大湊 希(米沢市)</p> <p>●優秀賞 阿部 貴之(榊引町) 齋藤 玲奈(羽黒町) 阿部 咲輝(朝日村) 佐藤 緑(山形市) 鈴木菜都美(大石町) 上野由香里(朝日村) 難波 和希(朝日村) 山木 理央(高島町) 杏澤 真佑(最上町) 橋本 大来(最上町) 大浦 沙織(高島町) 齋藤 那千(朝日村) 御橋夏津子(鶴岡市) 武田 奈緒(鶴岡市) 清野 郁(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 奥山 雅生(最上町) 守岡 雄朗(鶴岡市) 工藤 瑞穂(東根市)</p> <p>●優秀賞 石山 加奈(最上町) 菅 風沙(最上町) 伊藤 匠平(最上町) 渋谷 生帆(鶴岡市) 清野 真希(鶴岡市) 今井 大輔(鶴岡市) 菅井美香子(村山市) 五十嵐由香(鶴岡市) 大池 響子(米沢市) 阿達 大和(最上町) 稲垣菜里香(長井市) 土方 花重(鶴岡市) 南齋 宏駿(米沢市) 貝田 理沙(山形市) 宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立富沢小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 伊藤 佐久磨(朝日村) 小野寺寛貴(鶴岡市) 菅原 香織(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 伊藤 睦美(朝日村) 本間 稚菜(鶴岡市) 安孫子 郁(天童市)</p> <p>●優秀賞 二宮明日香(高島町) 阿部亜紗子(最上町) 大貫 秀平(最上町) 清野 史拓(朝日村) 佐藤 拓夢(鶴岡市) 岸 はづき(最上町) 洪井 彩希(山形市) 二戸 浩太(最上町) 阿部 貴敏(最上町) 秋野 寛斎(鶴岡市) 松田 恵(南陽市) 川崎 成也(南陽市) 清野 郁(朝日村) 中里恵里香(朝日村) 難波 和宏(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高島町)</p> <p>●優秀賞 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高島町) 後藤なつみ(高島町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(最上町) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 優(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市) 森 麻美(榊引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 森 麻美(榊引町) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤真生子(最上町) 齋藤 若佳(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 佐藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p> <p>●県中央会会長賞 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●優秀賞 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(榊引町) 田中 麻衣(山形市) 齋藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 安達 千李(三川町) 古川 悠(高島町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 清和 千秋(榊引町) 瀧口 夏子(天童市) 庄司 千鶴(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 今野絵理奈(鶴岡市)</p> <p>●優秀賞 伊藤 佐久磨(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 庄司 光(藤島町) 本間 公章(温海町)</p> <p>●優秀賞 結城 智裕(最上町) 佐藤 世和(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 遠藤 晃毅(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日中学校</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 結城まどか(最上町)</p> <p>●優秀賞 橋本 菜穂(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p>
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 茉純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 笠原 錬(最上町) 難波 沙英(朝日村) 小野紗由季(山形市)</p> <p>●優秀賞 東海林梨奈(尾花沢市) 倉金 卓美(尾花沢市) 柴崎 日向(尾花沢市) 原田 桃香(尾花沢市) 阿部 風子(尾花沢市) 西尾 昂大(尾花沢市) 荘司 留加(尾花沢市) 齋藤 千佳(朝日村) 七森 結花(朝日村) 佐藤 光(温海町) 古関 彰(山形市) 花等 雄太(山形市) 小玉 愛(上山市) 古川 千夏(山形市) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 笹原 瑞紀(尾花沢市) 乙坂ひかり(温海町) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 蛸井 葉月(鶴岡市) 難波 紗矢(朝日村) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 翼(最上町) 高野 陽希(最上町) 木村さえり(鶴岡市) 高橋 龍星(大石町) 本間 円(尾花沢市) 佐藤真理絵(温海町) 小内 将弘(尾花沢市) 鈴木 結(藤島町) 國分 雅哉(尾花沢市) 須田 琳子(鶴岡市) 日下部まどか(山形市) 設楽なつみ(山形市) 清野 美香(山形市) 伊藤 歩(山形市) 吉田真優美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 温海町立温海小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 荘司 留加(尾花沢市) 伊藤 祐太(尾花沢市) 村上 美紀(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 阿部 行成(鶴岡市) 須田 雄飛(鶴岡市) 武田亜沙美(山形市)</p> <p>●優秀賞 庄司 栞菜(尾花沢市) 村岡 孝一(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 渡部 香菜(朝日村) 佐藤 史彬(高島町) 渡辺 大平(尾花沢市) 菅野 慎也(尾花沢市) 有路 里香(尾花沢市) 古瀬 裕真(尾花沢市) 阿部 貴文(鶴岡市) 古川 知美(山形市) 須貝 恵美(山形市) 高島 香織(山形市) 椎名 俊一(山形市) 鈴木 聖美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 恵梨(山形市)</p> <p>●優秀賞 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 國分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 昶史(尾花沢市) 安達 美咲(高島町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 田村 里奈(山形市) 村上 美紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市)</p> <p>●優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 片岡 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗矢佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市)</p> <p>●優秀賞 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石町) 結城 弘斗(最上町) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 井上 庸(上山市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市)</p> <p>●学校奨励賞 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 茉純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 栗野幸智恵(山形市)</p> <p>●全国中央会会長賞 伊藤 拓也(朝日村)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 岸野 理沙(山形市)</p> <p>●優秀賞 佐藤 瞳(朝日村)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 斉藤祐季子(山形市)</p> <p>●優秀賞 佐藤 奨啓(寒河江市) 倉金 侑香(尾花沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 長岡 和美(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 山形市立金井中学校</p> <p>●優秀賞 阿部 凌(寒河江市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p>	<p>全国</p> <p>●全国中央会会長賞 齋藤 翠(山形市)</p> <p>●優秀賞 渋谷 侑(寒河江市)</p>

第35回	第34回	第33回	第32回	第31回	第30回
<p>山形県 ●県知事賞 寺崎亜寿美(大石町) 工藤 暢晃(庄内町) 小野 茜(朝日町) ●県中央会会長賞 佐藤 流偉(鶴岡市) 菅原彩花里(鶴岡市) 菅井 滯(朝日町) ●優秀賞 後藤 美空(米沢市) 菅原 菜央(鶴岡市) 鈴木 駿佑(大石町) 會田 空翔(山形市) 鈴木 花凜(米沢市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 長沼龍之介(高島町) 齋藤 健(真室川町) 齋藤 元希(大石町) 小林 一樹(寒河江市) 井上 玲(米沢市) 大橋 鉄郎(加菜) 坂野 涼子(米沢市) 江部ひふみ(米沢市) 香澤 佑樹(山形市) ●学校奨励賞 大石町立大石小学校 朝日町立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 伊藤南奈美(鶴岡市) 難波 葵(鶴岡市) 平山 美紀(山形市) ●県中央会会長賞 今野 杏唯(鶴岡市) 菅 瑞季(最上町) 白石みおり(米沢市) ●優秀賞 原田 真白(米沢市) 會田 空翔(山形市) 押切 真依(最上町) 後藤 大空(米沢市) 押野 明純(鶴岡市) 高橋 歩美(高島町) 阿部 杏香(鶴岡市) 安部 航大(高島町) 近藤 舞(鶴岡市) 山下 純平(最上町) 遠藤 ゆい(鶴岡市) 渡部 加菜(米沢市) 高橋 奏(米沢市) 山口 大智(南陽市) 我妻 隆羅(米沢市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 押野 明純(鶴岡市) 鈴木 彩(鶴岡市) 有賀この美(鶴岡市) ●県中央会会長賞 會田 空翔(山形市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 我妻 隆羅(米沢市) ●優秀賞 鈴木 彩(鶴岡市) 井上 秀香(真室川町) 山口 まの(鶴岡市) 伊藤南奈美(鶴岡市) 渡部 寿彦(鶴岡市) 黒井 紀香(鶴岡市) 瀬川 隼矢(庄内町) 金野 華奈(鶴岡市) 保科 拓也(鶴岡市) 尾形 有生(米沢市) 進藤小百合(米沢市) 小野寺奈々(鶴岡市) 安達 景都(鶴岡市) 小野寺千尋(鶴岡市) 小野寺陽奈(鶴岡市) 佐藤 理奈(山形市) ●学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 瀬川 隼矢(庄内町) 河野 美波(鶴岡市) 佐藤 楓(鶴岡市) ●県中央会会長賞 後藤 怜(最上町) 上野 艦(鶴岡市) 山口 和華(天童市) ●優秀賞 渡部 寿彦(鶴岡市) 笠原妃奈乃(最上町) 伊藤南奈美(鶴岡市) 結城 諒(最上町) 佐藤麻捺夏(鶴岡市) 五十嵐春奈(最上町) 阿部紗世子(最上町) 菅 風沙(最上町) 引地加奈恵(最上町) 齋藤 央奈(山形市) 櫻井 祥太(山形市) 山口 愛実(南陽市) 久保 朝香(米沢市) 橋本明香里(山形市) 伊藤 香理(鶴岡市) ●学校奨励賞 最上町立向町小学校 鶴岡市立第五中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 原田 咲雪(米沢市) 大池 清士(米沢市) 大道寺 滯(米沢市) ●県中央会会長賞 佐藤 悠汰(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 榎本江里加(鶴岡市) ●優秀賞 伊藤 裕太(鶴岡市) 鈴木 理沙(鶴岡市) 宮崎 俊也(鶴岡市) 情野 雪海(高島町) 金野 華奈(鶴岡市) 渡部 実佳(最上町) 小野寺千尋(鶴岡市) 沖田 竜馬(米沢市) 有賀この美(鶴岡市) 遠藤 拓実(庄内町) 渡部 香菜(鶴岡市) 尾形 祐佳(鶴岡市) 橋本 美月(米沢市) 那須友賀子(山形市) 後藤 萌(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第一中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 阿部拓悠真(庄内町) 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市) ●県中央会会長賞 後藤 剛(高島町) 佐藤 愛(米沢市) 佐藤 麻衣(山形市) ●優秀賞 渡部 由夢(高島町) 阿部 理沙(鶴岡市) 高橋 恵美(最上町) 阿部 貴之(鶴岡市) 齋藤 蓮奈(鶴岡市) 渡部 彩絵(鶴岡市) 菅野明日香(高島町) 小林 桜子(山形市) 有賀この美(鶴岡市) 佐藤 誠(庄内町) 山口 真盛(鶴岡市) 川田美沙樹(山形市) 今野 若奈(鶴岡市) 榎本有紀子(鶴岡市) 富樫 美穂(南陽市) ●学校奨励賞 庄内町立余目第二小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>
<p>全国 ●文部科学大臣賞 瀬川 隼矢(庄内町) ●農林水産大臣賞 石森 泉(鶴岡市) ●学校奨励賞 庄内町立余目第四小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 齋藤 隼也(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立西郷小学校 ●優秀賞 白石みおり(米沢市) 平山 美紀(山形市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 鈴木 彩(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●文部科学大臣賞 金野 華奈(鶴岡市) ●全国中央会会長賞 高橋 理久(村山市) ●学校奨励賞 鶴岡市立羽黒第三小学校 ●優秀賞 佐藤 楓(鶴岡市)</p>	<p>全国 ●優秀賞 大池 清士(米沢市) 大道寺 滯(米沢市)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 伊藤 浩司(鶴岡市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 ●優秀賞 治部あかね(東根市) 齋藤 那千(鶴岡市)</p>
<p>山形県 ●県知事賞 柴崎 真人(最上町) 森谷 康平(山形市) 原田 拓夢(山形市) ●県中央会会長賞 加賀 悠大(鶴岡市) 小幡 圭佑(尾花沢市) 荒井瑛絵(山形市) ●優秀賞 高橋 龍馬(大石町) 鈴木 来春(尾花沢市) 笹原 実莉(尾花沢市) 五十嵐一樹(尾花沢市) 西塚 優太(尾花沢市) 星 竜成(米沢市) 佐藤 一貴(天童市) 五十嵐友寿(鶴岡市) 佐藤 俊貴(鶴岡市) 押野 尚道(鶴岡市) 大滝 日菜(山形市) 高橋 里沙(山形市) 吉田 心(山形市) 遠藤 中央(山形市) 鈴木 里奈(山形市) ●学校奨励賞 鶴岡市立朝陽第二小学校 山形市立立井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 丹波 優大(尾花沢市) 森谷 康平(山形市) 鈴木 智佳(山形市) ●県中央会会長賞 菅 佑菜(最上町) 小幡 剛(尾花沢市) 武田可奈子(山形市) ●優秀賞 伊藤日向子(鶴岡市) 廣瀬 佳那(尾花沢市) 平井 堅太(高島町) 宮崎 泰成(鶴岡市) 西尾 文佳(尾花沢市) 海谷 有美(高島町) 佐賀井千里(鶴岡市) 高橋 捷(尾花沢市) 今野杏有子(三川町) 前田 和哉(鶴岡市) 荒井瑛絵(山形市) 田中 敦子(山形市) 阿部 浩宜(山形市) 岸 由麻(山形市) 三浦 彩希(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 阿部 篤(尾花沢市) 會田 次郎(山形市) 武田可奈子(山形市) ●県中央会会長賞 菅野 颯(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 岡部 咲(酒田市) ●優秀賞 島津 諒(高島町) 加藤 翔龍(尾花沢市) 佐藤 愛竜(尾花沢市) 藤井美名保(尾花沢市) 佐藤 崇人(鶴岡市) 伊藤 陸(天童市) 今野杏有子(三川町) 藤田 麗(鶴岡市) 井上 和也(尾花沢市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 佐藤 緑(山形市) 渡邊 千咲(山形市) 上林 穂末(山形市) 鈴木 里奈(山形市) 加地 明里(米沢市) ●学校奨励賞 尾花沢市立明德小学校 山形市立立井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 佐藤 永一(尾花沢市) 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市) ●県中央会会長賞 森谷 康平(山形市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 垂石 杏(山形市) ●優秀賞 三澤 悠花(尾花沢市) 鈴木 芹奈(鶴岡市) 本間 智広(尾花沢市) 押野 尚道(鶴岡市) 吉田 周平(尾花沢市) 森 謙太(尾花沢市) 原田 紘(高島町) 菅野 静香(尾花沢市) 香澤 佑樹(山形市) 丸田 駿平(尾花沢市) 羽角 葵(山形市) 島津 桃子(米沢市) 石井 志織(山形市) 橋本明香里(山形市) 中村 実那(山形市) ●学校奨励賞 寒河江市立醍醐小学校 山形市立立井中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 會田 三郎(山形市) 今野美季子(三川町) 齋藤 里沙(山形市) ●県中央会会長賞 押野 尚道(鶴岡市) 伊藤 浩司(鶴岡市) 玉虫 正和(米沢市) ●優秀賞 佐藤 俊貴(鶴岡市) 高橋 翔太(高島町) 小黒 拓真(高島町) 長谷川 舞(鶴岡市) 佐藤 琳(尾花沢市) 東海林 道(尾花沢市) 上林 晃(鶴岡市) 森谷 麻衣(山形市) 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 西塚 祐斗(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 大木 拓也(米沢市) 石川紗己子(米沢市) 佐藤 広康(山形市) 志田 優花(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立福原中小学校 米沢市立第六中学校</p>	<p>山形県 ●県知事賞 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市) 齋藤 里沙(山形市) ●県中央会会長賞 大類 海斗(尾花沢市) 浜田ひかり(南陽市) 玉虫 友美(山形市) ●優秀賞 星川 瑞生(山形市) 石山 詩穂(尾花沢市) 新田 尚太(山形市) 笹原浩太郎(尾花沢市) 佐藤つぐみ(鶴岡市) 加賀 東杜(大石町) 溝越 舞子(尾花沢市) 藤谷 睦姫(鶴岡市) 鈴木 潤(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 長岡 佑佳(山形市) 遠藤 瑞紀(山形市) 伊藤 茜(山形市) 神田 涼真(米沢市) 佐藤 勇太(鶴岡市) ●学校奨励賞 尾花沢市立立井中学校 山形市立立井中学校</p>
<p>全国 ●農林水産大臣賞 西田 知世(山形市) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 會田 三郎(山形市) ●学校奨励賞 山形市立南小学校 ●優秀賞 鈴木 智佳(山形市)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 栗野 梨恵(山形市) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 次郎(山形市)</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 會田 次郎(山形市) ●学校奨励賞 山形市立南小学校 ●優秀賞 花山 伶奈(寒河江市) 堀野 佑衣(山形市)</p>	<p>全国 ●農林水産大臣賞 須藤 萌(山形町) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 三郎(山形市) 今野美季子(三川町)</p>	<p>全国 ●内閣総理大臣賞 三浦 潤平(山形市) ●全国中央会会長賞 今野 桃子(山形市) ●学校奨励賞 山形市立第九中学校 ●優秀賞 會田 次郎(山形市) 小野寺百茄(鶴岡市)</p>

第 35 回

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

■応募数

作文：415点
 図画：906点 合計 1,321点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	68点	151点	196点	415点
図画部門	531点	308点	67点	906点

■審査

(1) 県予選審査期日

作文部門 平成22年10月26日(火)
 図画部門 平成22年10月25日(月)

(2) 全国コンクールの結果

文部科学大臣賞 (作文部門1名)
 農林水産大臣賞
 (作文部門1名、図画部門1名)
 学校奨励賞3校

(3) 県コンクール県審査会期日

(作文・図画部門合同で開催)
 平成23年1月18日(火)

(4) 入選作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点
 山形県農業協同組合中央会会長賞 作文3点、図画3点
 優秀賞 作文15点、図画15点
 学校奨励賞 作文2校、図画2校

■審査委員

作文部門 (6名)

審査委員長 柿崎 憲一氏(山形市立西小学校 校長)
 小沼裕佳理氏(山形市立第二小学校 教諭)
 升川 敦子氏(大石田町立大石田小学校 教諭)
 有路 智子氏(山形市立第一中学校 教諭)
 菊地 悦子氏(朝日町立朝日中学校 教諭)
 二藤部由美氏(東根市立第三中学校 教諭)

図画部門 (4名)

審査委員長 吉田 明氏(山形市立第十中学校 校長)
 神野 恭一氏(山形大学附属小学校 教諭)
 荒垣 靖氏(河北町立溝延小学校 教諭)
 大内 直人氏(東根市立神町中学校 教諭)

■表彰式

平成23年2月5日(土)
 山形市「山形国際ホテル」

年度	部門	1部	2部	3部	合計
5 (第18回)	作文 図画	210 1,276	359 964	217 54	786 2,294
6 (第19回)	作文 図画	167 1,164	330 820	179 53	676 2,037
7 (第20回)	作文 図画	220 781	300 647	138 23	658 1,451
8 (第21回)	作文 図画	201 639	337 507	152 66	690 1,212
9 (第22回)	作文 図画	63 643	229 461	69 40	361 1,144
10 (第23回)	作文 図画	75 907	137 594	117 47	329 1,548
11 (第24回)	作文 図画	108 869	195 450	108 26	411 1,345
12 (第25回)	作文 図画	65 495	122 311	112 9	299 815
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923
22 (第35回)	作文 図画	68 531	151 308	196 67	415 906

◆ 第35回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領 ◆

1. 趣 旨

このコンクールは、お米・ごはん食、稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、お米・ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらおうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとお米・ごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

2. 「作文・図画の課題」「応募資格」

「応募規格（枚数・大きさ）」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

【課題】（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食についての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。

特別支援学校の小学部、中学部。

【応募規格】（枚数・大きさ）

●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰市販原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰市販原稿用紙4枚以内)

●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生
B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

【応募規則】

- (1) 課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
- (4) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表を必ず添付してください。
- (6) 作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。
①作品の題名 ④学校所在地(郵便番号・電話番号)
②氏名・性別 ⑤本人住所(郵便番号・電話番号)
③学校名・学年・組 ⑥JA名(農協名)
- (7) 全国コンクールの各大臣賞および全国農業協同組合中央会会長賞受賞作品は平成23年3月に返却予定です。山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会会長賞受賞作品は、協同の杜

「JA研修所」に1年間展示後、平成24年2月上旬返却予定です。これ以外の作品は平成23年2月上旬に返却予定です。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会に帰属します。

- (8) 本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報、承諾なく第3者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品展示などの広報活動で公表する場合があります。

3. 締切日

平成22年10月12日(火)(必着)

4. 入賞発表

全国発表 平成22年12月1日

本県発表 平成23年1月20日

5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

●山形県知事賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書カード)

●山形県農業協同組合中央会会長賞

両部門各部門ごとに1名 計6名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書カード)

●優秀賞

両部門各部門ごとに5名 計30名
(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書カード)

●学校奨励賞

両部門ごとに2校 計4校
(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書カード)

6. 審査委員

県教育庁、小・中学校教諭

7. 応募先

- (1) 県内の各JAを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次に問合わせください。
〒990-0042
山形市七日町三丁目1番16号
山形県農業協同組合中央会
(JA山形中央会)
農業農政部
「作文・図画コンクール」係
TEL 023-634-8114
FAX 023-633-1754

8. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。
- (2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の題名			
フリガナ			性別
氏名			男・女
フリガナ			
学校名	立	学校	年 組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
フリガナ			
本人住所			
当該JA			

